

北京日記 4 11月分

11 / 1 (土)	留守番
11 / 2 (日)	遠足
11 / 3 (月)	宮廷料理
11 / 4 (火)	授業
11 / 5 (水)	西単・前門
11 / 6 (木)	日本学総合講座
11 / 7 (金)	雪
11 / 8 (土)	香山公園
11 / 9 (日)	総選挙
11 / 10 (月)	人民大学講義
11 / 11 (火)	論文読書茶話会
11 / 12 (水)	サヨリ
11 / 13 (木)	授業
11 / 14 (金)	在宅
11 / 15 (土)	女子バレー
11 / 16 (日)	旧貨市場と木彫りの熊
11 / 17 (月)	酢豚
11 / 18 (火)	ピザ
11 / 19 (水)	秋雨
11 / 20 (木)	日本学総合講座
11 / 21 (金)	修士論文中間報告会・食事会
11 / 22 (土)	原稿書き
11 / 23 (日)	原稿書き
11 / 24 (月)	原稿書き
11 / 25 (火)	授業・天津行き
11 / 26 (水)	南開大学講義
11 / 27 (木)	日本学総合講座
11 / 28 (金)	原稿書き
11 / 29 (土)	原稿書き
11 / 30 (日)	原稿完成

11 / 1 (土)

元が持ってきてくれた紀伊国屋のイギリスパンで朝食。久しぶりの味を満喫。皆は市中見物に出かける。今日も霧が立ちこめている。フロントの日本語ができる人に訊くと、秋から冬への換わり目には、霧の日が続くとのこと。ネットの予報では、月曜日ころから最低気温が零下になるようだ。いよいよ寒さの季節にはいるらしい。

新聞に、西安の日本人留学生弾劾事件が短く報道されている。西北大学の学園祭で、留学生と日本人教師が、卑わいな寸劇をやったのにたいして、学生が憤激して、留学生寮へ押し掛けて、公開謝罪を要求し、日本人が殴られたという事件だ。日本人の集団買春ツアーが批判されたばかりだから、性的な表現が学生の怒りを誘ったらしい。中国の性に関する許容度は、日本よりもはるかに厳しいことを知らないようでは、留学の甲斐はない。教師までがそれではなにをか言わんやだ。しかし、単なる性表現だけの問題ではないかもしれない。ネットニュースでは、中国人を侮辱したとも伝えられているから、寸劇の内容がひどかったのだろう。いずれにせよ、相互理解を進めるどころか、相互誤解を深めるような人的交流は有害無益だ。

昨日の朝刊トップは、EU とガリレオ（民間航行衛星）協力協定調印の記事、今日のトップは、ベルルスコーニ首相と温首相の会談の記事。このところ、欧州との外交関係強化の動きが目立つ。イタリアは、北京の大気汚染対策として、無公害車購入、交通制御システム構築などのために 1640 万ユーロを提供したらしい。欧州勢の中国外交も極めて積極的だ。政府レベルは靖国参拝・毒ガス処理などでもたつき、民間レベルはセックスで鬻ぎを買った日本外交は、無様なだけでなく、機会喪失につながるだろう。主楼に置いてあった Beijing Today には、中国の億万長者番付の記事があった。フォーブスの 2003 年

番付では、インターネットのポータルサイト NetEase の創設者 Ding Lei が、総資産 10.76 億ドルでトップ、第 2 位は 9.34 億ドルの Rong Zhijang (CITIC パシフィック・グループの所有者)、第 3 位は 8 億ドルの Xu Rongmao と続く。2003 年の世界 1 はビル・ゲーツの 407 億ドル、日本 1 はサントリー佐治信忠の 71 億ドルだから、まだ中国の億万長者は小粒だが、急速にタイクーンが育っている。ところが、長者番付に名前が乗ることは「不幸のタネ」だという。かつての長者で、名前が出たために税務当局や検察当局にマークされて、脱税で逮捕されたり、追徴課税されたり、先物取引を規制された例が沢山あるそうだ。

冷やしうどんの昼食。少し風があるので、樋口先生の坊やを凧揚げに誘おうと電話したが留守。飲み手が増えたので、利客隆スーパーヘビールとワインの買出し。帰ってテレビを付けると無名塾の「セールスマンの死」の幕切れ、あとで山川アナウンサーが仲代達也にインタビュー。仲代のウイリーは見られなかったが、滝沢修とは異なる解釈で演じたようだ。滝沢ウイリーは今でも思い出せる名演だったから、仲代のも見てみたかった。

誰もいないので、久しぶりに習字の練習。王羲之の「楽」を書く。なかなか楽しそうな字にはならない。夜は易先生と一緒に天外天で会食。北京ダックをメインに海鮮寄せ鍋、焼き羊肉、豚肉ピラミッド、あひろの水かきなどを楽しむ。字を書くよりも食べる方が楽に楽しめる。易先生の教え子の話をする。修士課程が 3 年から 2 年になった最初の修士も出る年なので、就職は競争が激しいとのこと。

11/2 (日)

今日は遠足。センターの社会系の先生・院生と北京北部の田舎の見学にバスで出かける。8:15 に宿舎前にバス。元がお土産を渡して、1 人で参加する。周先生・宋先生、事務方と院生 10 名で、十三陵の北の農村に向けて出発。八達嶺高速を西関で降りて十三陵の脇を通って北へ。道路脇の植栽のハゼウルシが紅葉して美しい。

山路を登っていくと集落があり農家菜の看板が並ぶ。さらに登ると碓臼峪の駐車場に着く。団体で入場して溪谷の岩の道を歩くこと 1 時間。吊り橋あり、丸木橋あり、石の渡河場ありの路を、虎の頭、將軍など名付けられた奇岩を眺めながら登る。最終の潭から引き返す。周先生と話しながら、西安の日本人学生・教師の事件について意見をうかがう。西安では少数民族差別問題などで、市民を巻き込んでの運動が起こったことがあり、今回も、学生以外の市民が反発したらしいとのこと。底流としての反日感情はあるらしい。

門まで帰ると、すでに 12 時近くになっている。最後尾が帰ってくるまでの間、駐車場で凧を揚げる。宋先生が上手に揚げて、皆が喝采。

少し戻って農家で昼食。農家リゾートで、ベッドとトイレが付いた部屋が 10 数室あるなかの 1 室で、野菜を中心とした料理を楽しむ。白酒も 1 瓶。食後は、柿採り。川向こうの斜面に柿が実っている。フックの付いた木の棒で中国柿を落としてビニールの布で受ける。採りたてを食べるが、ゼリー状になっていて、好みではない。庭の次郎柿の歯触りをここで求めるのは無理のようだ。

農家リゾートを経営する青年は、年収 6 万元ほどという。かなりな収入だ。昔は、柿やリンゴを売って、細々と生活していたが、最近の自然ブームで、部屋を新增設して高収入になったらしい。都市近郊の農村は、新しい収入源を見つけることができる。しかし、すべての農村でこうはいかないだろう。農村・農民問題は、深刻さを増すに違いない。

バスで帰路につく。宋先生に、毛沢東の夢まで捨ててはいけないとカラんだ。ちょっと迷惑だったかもしれないが、市場経済の問題点を強調する気持ちは判ってもらえただろう。中国のインテリゲンチアは、資本主義のもたらすマイナスは感じているが、まだ、文化大革命的社會主義が与えたショックからは自由になってはいない。あの傷から癒えるにはしばらく時間がかかりそうだが、それでは、遅すぎるだろう。現状から近未来を見通す醒めた目を持って欲しいと思う。

バスのなかでは、みんなの中国語を聞く。日本語を話しているときは幼い少女のようだが、中国語の発話を聞いていると、成熟した女性のように感じられるのは面白い。22 歳は過ぎた大学院生だから当然ではある。言葉の魔術か？

6 時から、来週お帰りになる和栗先生の送別会。ホテル向かいの料理店で皆さんと会食。濱先生の美しいお嬢様も。濱先生がタンまで料理なさるとは驚いた。志摩観光ホテルのシェフとお知り合いの腕前とは。

元たちは、老舎茶館の京劇・雑技アラカルトを楽しんで帰ってきた。紅橋市場での値引き買い物の話は、いつもながら、駆け引きの可笑しさで笑える。

11/3 (月)

元たちは 7 時半に、易先生にお願いした人民大学のサンタナで長城・明十三陵に出かける。予報ほど寒くはなく、晴天で気持ちがいい。われわれも紫竹院公園へ出かける。西太后が頤和園に出かけるときに

ここから舟に乗った波止場がある公園。先日、頤和園から舟に乗った時もこの船着き場で降りて、小舟に乗り換えた。園内は3つの池とそれをつなぐ水路、青蓮島などがあって、夏は舟遊びの名所らしい。竹林が多く、柳の黄葉、楓の紅黄葉が美しい。紫竹 black bamboo は見つからなかった。

北側には釣り堀があって、糸を垂れる人たちがいる。池の方でも釣る人がいるが、看板には禁止と書いてある。釣れた様子はない。凧を持っていったが、風は吹いているのに揚げる場所はなかった。

バスで人民大学まで乗って、六合人家で昼食。六合とは全世界を意味するから、この店は、中国各地の料理、刺身まで出すファミレスだ。炒醬面(5元)、担担面(3元)、六合面(8元)を食べる。炒醬面は、隣の半畝園の三分の一の価格だけあって、麺が良くない。担担面はさすがに辛い。六合面は五目麺であまあの味。

利客隆の前で宝くじを売っている。福利採票、招財進宝で、1枚2元、1等は9998元、2等500元、3等400元、4等10元、5等2元の賞金。勸進元は海淀区で、還元率は50%と書いてある。福利施設の財源のために行政区が発行しているようだ。買っている人は見かけない。

甘栗、蒸し餃子を買って帰室。2人でバス代4元、入園料4元の清遊。

案外早く元たちが帰ってきた。劉さんの運転で効率よく回ったようだ。4:15から1階の共同利用室で意見交流会。図書購入、引継報告書、修士論文答弁会などについての連絡、皆の意見交換。途中で李先生が迎えにきてくださったので、一足お先に失礼する。

北海公園の瓊華島にある宮廷料理の店、【人偏に方】膳飯荘で李先生夫妻と会食。東門から入って水辺の半円形の建物に歩くと、ローソク提灯を持って宮廷衣装を着た女性が案内してくれる。太い歯の1本足下駄のような履き物を履いている。正面に金ぴかの龍をあしらった玉座、天井・柱が華麗な大部屋の円卓のひとつを囲む。大根やニンジンで細工した3匹の鶴の飾りを中に置いて、名物の豆羹も含めた前菜、タコの卵入りスープ、鶏とカシューナッツの炒め、鹿肉煮込み、あわびのうえにすり身をのせた蒸しもの、大エビ炒め、挽肉のパイ皮包み、草魚の菊花風揚げ物、茸とセロリ炒め、牛肉そばろをパンに挟む餅、数種類の点心、西瓜とハミ瓜。すべてあっさりした味付けの料理なので感心した。皇帝たちは、油こくなく塩分も薄めの料理を食べていたらしい。甘い点心も、優美な味。紹興酒の10年ものは上等で、酒瓶ももらって帰る。芸術学院の学生に琵琶の演奏を頼む。日本の歌謡曲や中国古曲などを4弦の中国琵琶で5本の指に爪を付けて巧みに弾いてくれた。6曲で200元。1500元ほどの領収書の籤を削ったら20元の当たり。李夫妻も店の人も珍しがっている。あまり当たらないものらしい。ビールかお菓子、20元分というので、お菓子にする。珍しい形の小さいお菓子をたくさん箱に詰めてくれた。後海の夜景を見に行き、バーの並ぶ胡同を歩く。なかなかの風情だ。

みなで帰室すると、元が共同利用室から、ケーキと花束を持ってきた。昨日、院生に頼んで用意してもらったようだ。院生の皆さんからの切り絵と祝賀メッセージも。望外の結婚記念日になった。

11/4(火)

6時半に英ちゃんたち出発、元が見送り。双榆樹早市へ散歩。公園の売店に体育彩票の看板がある。トトカルチョのようなものか?カリフラワー、ドジョウインゲン、青梗菜、菜の花、ウドンを買って、成都小吃で包子と餃子。元が帰ってきて、一緒にセンターへ。ケーキのおすそわけを院生研究室へ届ける。2年生に明治期の工業化の授業。上からの資本主義化ではないのかとの質問には、紡績業・製糸業ともに初発は政府主導だったが、本格的展開は民間企業に依ることを説明。原始的蓄積が暴力によって進められたイギリスとの比較の質問には、江戸時代の農民層分解、開港後の世界資本主義による分解の促進、初期政府による政策結果としての分解の3段階を説明。中国の国有企業の民営化については、株式会社化しても、株式の国家所有部分が多い場合には実体としては民間企業とは言えないと答える。憲法改正にしても所有関係がこれからの問題点だ。

バスで在職修士課程の皆さんと帰って、帰国する和栗先生をお見送り。

打包スープうどんの昼食、昼寝、昼風呂でのんびりする。新聞は、訪中したパキスタン大統領と胡主席との会談がトップ。別の記事では、アメリカに中国外交をアジアを囲い込もうとするモンロー主義と批判する空気があるのにたいして反論。中国の対アジア積極外交は、アジアを中国の庭にする意図からではなく、新しい国際主義を理念とする対等互惠の関係作りと説明している。アメリカの警戒は、自国の歴史経験からのカンگریではあるが、中国の新国際主義も、アメリカを強く意識しての対アジア・対EU外交ではある。

菜の花のおひたし、インゲンのゴマ和えなどに日本酒で和風の夕食。

11/5(水)

朝は、理工大に散歩して、焼き餅、豆乳などを購入。豆乳は0.8元で、双榆樹早市の0.5元より少ないから、濃いだらうと想定。沸かしてニガリを入れると上等な豆腐ができた。水分がたくさん残ったから、まだ薄いのだらう。

池田氏から送られた上田論文を読む。新しい観点がだされていて面白い。しかし、現代資本主義とグローバルイズムの差異、日本資本主義とグローバルイズムの関係あたりが、やや手薄だ。池田氏経由で、修正コメントを発送。吉川弘文館の「日本歴史」に寄稿した山本義彦著書の書評を校正。これは、一時帰国される守屋先生に投函をお願いしよう。

昼前に、西単に出かける。王府井が銀座なら、西単は新宿の雰囲気。民族大世界は、大通りに面してはブランド物の店だが、裏は、秀水市場のような小店の行列。服飾品を中心の安売りで大にぎわい。ウィークデイなのに、たくさんの人出だ。

デパート8階の美食街で、餃子、雲南炒飯、炒め麺の昼食。餃子は、餡を選んで作ってもらう。10個5元。雲南炒飯は、モヤシが入っていて辛目。タクシーで前門へ。裏道へ入ると浅草・秋葉原の雰囲気。セーター、毛帽子などを購入。元がかなり強腰で値引き交渉して言い値の四分の一から三分の一くらいで買う。

大柵欄という変な名前のショッピング街もある。なかなか面白いところだ。路地の店が道路にはみだして商品を並べているところに、パトロール隊がやってきて、かなり手荒に卓を整理する。取り上げた卓は、一時、事務所に保管してしまうらしい。

天安門広場では、風が強すぎるせいか、凧は少ない。杭州で見たような踊る人形が不思議なので5元で買ったが、種明かしは細糸で吊っているだけのこと。買った連中が、なんだと言う顔になるが、クレームをつける人はいない。引っ掛かった方が悪いので、今さら、文句は言えないのだ。

バスでカルフルへ。ワイン6種、エビ・シシャモ、ヒレ肉・挽肉・腸詰め、チーズ、フランスパン、豆腐などを購入。VISAカードを出すと、別のカウンターへ連れて行かれる。中国カードなら普通のカウンターでも受け付けるようだが、国際カードは、まだ別扱いだ。ここらは、今後の問題点だろう。タクシーで帰室。ワイン、揚げ出し豆腐、エビフライ、ヒレカツ、ポテトフライで夕食。腹部の脂肪蓄積が気になり始めた。

李先生が、電話で、明日は雪が降りそうだから気を付けてとってくださった。冬近しか。

11/6(木)

バゲットで朝食。通勤バスは篠崎先生と元と3人だけ。和栗先生はご帰国、清水先生は広東・香港にご出張。お嬢ちゃんたちも風邪気味。

2・3年生に日本的経営・日本的生産方式の話をする。元が時折補足してくれる。メインバンク制についての質問、金融資本についての質問、ビッグバンについての質問など、なかなかレベルが高い。さすがに選ばれてきた院生だけに、日本語能力以外の点でも優れている。メインバンクやビッグバンは元にも説明できるが、金融資本は無理で、ドイツ・アメリカの歴史的特殊性を話す。この国のマルクス主義教育は、かなり型にはまっているらしく、基準教科書の記述が、広く共有されている。原典を読むわけではないから、ステレオタイプになる。日本マルクス主義の常識を話すだけで、視野が広がるようだ。授業が終わってからは、蔵書目録OPACを検索しながら、購入すべき書籍の選書を元とする。とりあえず、経済史関係の基本文献を選ぶ方針だが、かなり時間がかかって終わらない。さらに、最近の社会科学系新刊を選ぶ予定。予算は社会系で80万円はあるから、基本書は買えるだろう。

送迎車で帰室。スパゲッティで昼食。車でセンターへ。守屋先生の日本学総合講座「配慮表現から見た日本語」を拝聴。普通使っている敬語やポライトネス表現、配慮表現を、文法論・語用論・社会言語論と観点を変えながら解析する講義は明解。自分の身体化した部分を、レントゲン写真で見せられたような、つまり、裸にされたような感じがした。

先生は、語用論の立場らしい。引用された誤用例は、日本人でも間違えかねない表現の微妙さを含んでいて、中国の人は戸惑う様子。たとえば、目上に席をすすめるとき、「よろしかったら、おすわりになりませんか」と、「よろしかったら、おすわりになってくれませんか」の選択では、実験例では130人中40%がを誤選択。スピーチ原稿のチェックを頼んだひとが、次の日に、先生に話すとき、「先生、昨日の原稿、もう、お読みになりましたか」と、「先生、昨日の原稿、もう、読んでいただけましたか」のどちらが正しいかとの設問では、日本語教師でも69人中38人がを誤選択、全体で誤回答率は85%に及ぶとのこと。日本留学経験があって上手な日本語をしゃべる社会系の院生KSさんも、席の発話については、どっちが正答か聞きに来るほど。

院生の質問が途絶えたときに、また、一言おたずねしてみた。守屋先生が、「これは上品な女性の発話」をおっしゃったので、ポライトネスと上品の関係がうかがう。国語審議会の中島みゆきの歌詞は上品ではないと付け加えて。お答えは、上品・下品と価値評価することは、語用論も文法論も避けているとのこと。ただし、中島みゆきは、上品とは言えないところに人気の秘密があるのではとも。

言語学者も、立場はいろいろらしい。人権論からして発話の差別化は肯定しないし、対等なコミュニケーション機能を言語に求めるのが普通のようなのだが、そうすると、敬語をタテの敬語からヨコの敬語に直

そうなど、かなり無理な提案をする羽目になる。そんなことをしたら、B.ショウは「ピグマリオン」を書けないし、「マイ・フェア・レディ」の可憐なヘッパーンも観られなくなってしまう。

ひと思いに、言語の支配機能を認めたくて、そこから抜け出せる語用法を創造しては如何とも思う。帰宅してメールを開いて驚愕。南開大学の武先生招聘の件で、問題発生とのこと。書類不備でビザ発行が躓いたようだ。電話で連絡しようとするが、なぜか話し中が続く。とりあえず、メールで連絡して返事を待つ。

カツ丼の夕食。見ると雪が降っている。先月 12 日に長城付近では降雪があったが、北京市内では初雪だ。道路まで白くなりかけている。初雪の写真をとってバルコニーに出る。うっかり、ロックを解除しないでドアを閉めたので、部屋に戻れなくなった。ドアを叩いて、恵子に開けてもらう。ヘタをすれば、初雪の「北京に死す」だ。

11 / 7 (金)

雪は 3cm くらいいつもって止んだ。散歩に出ると、まだ葉を落としていなかった白楊、柳、槐が、湿った雪の重さに耐えかねて、かなり大きな枝を折られている。賓館内の松も一本倒れている。雪が早く来すぎたのだろう。3 環を越える歩道橋は、まだ一部しか雪がききしておらず、すこし滑る。気温はさほど低くないので、札幌市内のように降雪が凍ってツルツルという状態ではないが、転んでいる通行人もいる。降雪地帯ではないから、雪に慣れていないのだろう。昨日から、あのツルツルタイヤのタクシーが、どれほどスリップ事故を起こしたことが。

24 時間営業の永和大王で、小包子を買う。6 個で 6 元だが、味の割には高かった。

5 日朝刊トップは、穀物価格上昇、6 日は田舎から出てきた子供たちの教育問題、今日は、ザンビアとの関係強化の記事。

穀物価格は、1997 年以来低落傾向にあったが、この 10 月中旬から上昇に転じた。これは、農家所得を上昇させるから歓迎すべきだが、失業者や低所得者には配慮が必要。世界価格からすると高値だから、中間階層が困るほど価格は上昇しないだろうとのこと。

田舎から都市に出た家族が連れてきた子供たちの教育環境調査では、82%の子供が「満足」している。都市戸籍がない場合にも、特別納入金を支払えば義務教育機関に入学できるようだ。ただ、その納入金が大都市では高い。北京市のそれは吉林市の 40 倍。その結果、中小都市の方が出稼ぎ家庭の通学率は高くなっている。政府は、納入金を安くして、教育機会の平等化を図りつつあるとのこと。都市戸籍が無い場合の大きな問題点は子女の教育機会の問題であったから、これが解決すれば、戸籍による差別はかなり緩和されるだろう。

このところ、経済成長についての楽観的見通し記事が多い。しかし、財政金融政策の調整を求める意見も目立つ。今年前半期の GDP 総額中で、60%以上が投資（多分、固定資本形成）だということから、これはかなり異常だ。1998 年には投資は 26.5%で、これは普通の数値。去年は 1.5 兆元、今年も 1.4 兆元の国債が発行されているから、まだ国家主導型の固定資本形成が大きく、民間分野を拡大する必要性が主張される。そのためには、外資導入が不可欠ということになり、所有権法を含めて法制度の整備が緊急の課題とされる。昨日から珠海で開かれている世界経済発展宣言会議に出席した呉儀副主席は、国有企业改革にも外資が参加できると語っている。

社会欄では、人口政策の変化やセクハラ訴訟が取り上げられている。急速な高齢社会化に対処するために、一人っ子政策の緩和が進められている。上海では、これまで、農村部の夫婦のいずれかが労働能力に影響するほどの障害を持つ場合には、第 2 子出産が認められていたが、それを、都市部にも拡張する規則改正が提案されている。あるいは、再婚の場合、これまで夫婦いずれかが子供を連れていない場合に、出産が認められたが、新規則では、ともに子持ちである場合にも 1 人を出産できる。また、第 2 子は第 1 子誕生から 4 年後でないと許されなかったが、この制限も廃止される。一人っ子政策の基本線は変わらないが、ゆっくりとそれを緩和する方向が出てきたようだ

セクハラ訴訟は、これまで 4 件に判決が出ていて、西安の女性教員を原告とする事件だけが、加害者有罪として公的謝罪の判決を下している。ほかは証拠不十分で原告敗訴。昨日の北京市での第 1 号判決も、上司を訴えた原告の敗訴。ただし、上司の名誉毀損上訴も棄却されている。どうやら、セクハラについての根拠法が未制定らしく、女性協会からはその制定が強く求められている。働く女性が多い国だが、女性の人権面に対する配慮は十分でないようだ。

炒飯の昼食。平澤さんから電話で、招聘問題は解決しそうとのことと安心した。

澤山さんから、「青山経済論集」の締め切りが近づいたとのメールなので、書いた分を読み返して、続きを書く準備をする。

ポークシチューで夕食。雲南紅という雲南ワインを開ける。ブドウの味が残るフルーティなワインだが、52 元はやや強気な価格設定だ。

沈先生から電話で、新しいマンションを購入して内装の選定に忙しかったとのこと。南開大学経済学院での講演を約束。

張淑英先生からの電話で、明日、香山公園に連れて行ってくださることになる。

11/8(土)

成都小吃の包子で朝食。7:30、張先生から電話で、あわてて出かける。中国銀行にお勤めのご主人と一緒にタクシーで来てくださる。904バスの通る魏公村路で香山行きのバスに乗り換える。頤和園の横を歩いて香山へ。2000年の時には、道路工事中で大混雑した道だが、いまはもうすっかり出来上がっている。終点からややのぼりの道を歩いて公園入口へ。雪で途中の樹木の枝が折れている。このほうが、雪は深いようだ。

入り口からは、雪の残る石畳と石段の道を登る。滑るので、場所によっては登山道脇の山道を選ぶ。新しい建物があって茶屋になっている。登るとともに北京市街の雪景色がよく見える。周りの木々は、黄葉は残るが、紅葉はもうない。ご主人の話では、先週の土曜日にお友達と来たときには、紅葉していたとのこと。ただ、紅葉を採って、売っている連中がいたから、無くなった可能性があるとも。たしかに、後で下りたときに、紅葉売りが、紅葉を束ねて売っていたから、むしろ分もあるに違いない。香山の紅葉は見損なったが、雪景色は満喫できた。

セーターを脱いでも汗だくで登る。恵子は、気圧が変わるのが判るから、かなり高い山だという。膝をだましまし、一歩ずつ登る。ようやく、香炉峰頂上に着く。海拔は570mくらいで、恵子が思ったほどではない。さすがに空気は冷たく、上空は抜けるような青天。一望できる北京市街は、ところどころに高層アパート団地、西にテレビ塔が見えるが、少し霞んでいる。一種のスモッグのようだ。頤和園の昆明湖が近くに見えて、その手前に先日完成した5環路が走る。西の方には火力発電所の太い煙突が煙を吐いている。潭柘寺の山も見える。裏山との境には、公園を囲む塀が尾根筋に続いていて、長城ミニアチュアのようだ。北側は低い山並みが続く。

下りは、リフトのかかる斜面の石段を降りる。結構急な石段で、途中で凍っているところもあるから、脚への負荷は大きい。2000年にはリフトで上下したから楽だったが、今日は近来にないハードワークだ。また汗をかきながら眼鏡湖に到着。途中にクジャク養殖園があって、200羽以上のクジャクがいた。タクシーで臥仏寺へ。北京植物園の奥に伽藍があって、文物局管理の文化財になっている。奥まではかなり遠いので電気自動車で行く。回廊部分は修理中で、縦に並ぶ一番奥の堂に涅槃仏がある。元代の鑄造だが、修理が施されていて輝いている。

904バスで白石橋まで戻って上海人家に行くが、2時過ぎで閉店している。タクシーで北京飯店近くまで行って張先生ご存じの店に入ろうとしたらここは休み。並びの重慶料理店に入って料理を注文したが、料理人が午後の休みを取っていて、結局、うどんとビールだけの昼食になってしまった。額に「知足常楽」とある。香山にも数え歌のような人生訓の看板に、「一重知足」とあった。今日の昼食にはふさわしい言葉だ。

タクシーで頤和園まで送っていただく。ご夫妻にすっかりお世話になった一日だった。

風呂に入って脚をマッサージして昼寝。夕食は、久しぶりに専家食堂で取る。料理5品とビール2本で50元。専家は半額だから経済的だ。

11/9(日)

朝は双榆樹早市へ。雪はまだ残っているし、折れた枝も積まれている。新聞では、北京市内で5000本が倒れ、2万本が折れたと報道されている。途中のアパート団地、社区の入口に糖尿病の講話の掲示がある。糖尿病は染色体病だが、有効な漢方薬が開発されたとのこと。野菜のストックが無くなったので、ジャガイモ、タマネギ、ニンジン、タロ芋、ドジョウインゲン、カリフラワーを買う。外に馬車で小型の西瓜を売っていた。試食すると甘いので2kg1つ3.5円で購入。成都小吃で餃子と包子。

西瓜は、思ったより甘くなく、ポンチに加工。朝風呂でくつろぐ。11時にNHK昼のニュースを見ると、投票率は悪いとのこと、自民党有利か？

焼きうどんの昼食。恵子たちは買い物に。昼寝をしてから、授業のレジュメを作る。

新聞は週末版で大気汚染グラフが出ている。11月第1週では、最高値で北京がワーストワンになっている。昨日の香山からの眺めでも、市街部はスモギーだった。

世界経済発展宣言会議の特集版には、国有企業の改革への海外企業の参加を奨励する記事。合併企業による共同株式会社化を進めるべく法制度などを改正するという。2002年の数値で15万9000の国有企業が4681万人の労働者を雇用しているが、政府は、業績の悪い国有企業には市場からの退場を求め、多国籍企業の参加などで競争力を付けた企業を援助する方針。

私企業は、2002年末までに243万社、他に自営業的な小規模私企業2377万に達して、GDPの23%を占めるにいたったという。全面的な小康社会 a well-off society in an all-round way を目指す中国では、

今後も、民間企業の発展の機会が広がるとの見通し。張先生にうかがった限りでは、「全面的な小康社会」とは、以前に目標とされた「温飽社会」、つまり、衣食が足りている社会よりも一歩進んで、国民生活を支える消費財があらゆる階層に十分に供給される社会を指す言葉で、10年くらい前から使われているらしい。

新聞報道の数値は、断片的だから、そのうちに全体像を確認する必要がある。

利客隆スーパーで売っていたヒラメの煮付け、中華総菜、インゲン胡麻よごし、芋煮で夕食。ヒラメは皮の感じが少し違うが、結構美味しい。タロ芋は、やはり水っぽい。

選挙速報をネットで見る。投票率が低かった割には民主党が伸びている。山崎拓、土井たか子の小選挙区落選は、自民伸び悩み、社民凋落の象徴だ。

11/10(月)

朝、理工大へ散歩。北門から3環沿いを歩く。美容院の看板は、減肥と美白。スリムな女性が多いだけに、多少でも肥ると気になるのかもしれない。美白は、アジア女性の願望か？理工大北門の隣に北京新干線学校という学校がある。看板では補習学校、学習塾だ。中国の学習塾通いは、日本を上まわるほどに盛んらしい。構内に入ると、バスケットボール部が、**What is impossible? We can make everything possible!** という赤い垂れ幕を出している。スポーツのことだろうが、今の中国の若者の意気込みを示すようだ。いつもの焼き餅、豆乳、キャベツを買う。

人民大学の易先生の大学院クラスで、「日本の社会 過去と現在」を講義。古代から近世までを概観して、明治維新後の近代日本社会の特質、戦後改革によるその変質、現代日本社会の抱える問題点を話す。日本の若者が、自分の能力について自信を持たず、将来への希望を失っているというが、それは何故かとの質問。アメリカを目標に、モノの豊かさを追求して大衆消費社会を実現したところで、目的を見失ったこと。受験競争が、早い時期に能力の格付けをするので、将来への諦めが早くなることなどを答えとしたが、そうかなと自問。元は、夢を無くした大人を見ていると若者もやる気をなくすと発言。日本人は非武装平和国家という憲法理念を世界に広めることを夢、目標に掲げるべき時だが、昨日の選挙は、改憲の自民党が支持されて、護憲の社民党が大敗したので、これは現実性を持たないとも語る。

大学進学率が12%ほどの中国では、大学生はエリートとして将来に希望を持てるのは当然で、進学率50%を越える日本の大学生とは違うとの指摘には、納得したようだ。大学院生の希望は、大学の教員になることだが、修士課程だけでは一流大学には職は得られなくなったとのこと。最近、大学教員も、業績主義評価が厳しくなってきた、かつてのようなゆとりは無くなってきた。それを見ていると、日系企業に就職した方が良いかと考える院生もいるようだ。

易先生と4人で、燕山ホテル横の食為先酒家で昼食。餃子大王と同じ経営で、餃子も食べられる。人民大学構内は建築工事が盛んだが、まだ、立ち退きが済んでいない地域もあるとのこと。文化大革命中に、校地内に工場や宿舍が建てられてしまって、その立ち退きには、大学が補償金を払うことになる。まだ、軍関係の宿舍が残っているが、居住者は、1平方メートルにつき2万円でも立ち退かず、2.5万円でも承知しないそうだ。この国の権利関係も結構複雑だ。

午後は、論文の続きを書くべく資料を読むが、ついうたた寝。澤山さんからは、12月1日締め切りとのメールが来ているのに。

夕食は、自家製豆腐、カボチャ炒め、ポークピカタなど。BS2で、吉永さゆりと高橋英樹の伊豆の踊り子を観る。高橋英樹の若い頃を見るのは初めてで、最初は誰か判らなかつた。ハンサムであるが、上手いとはいえない。そのまま、スペイン紀行を観て、スペインは世界遺産が一番多い国であることを知った。よく考えてみると、あの国の歴史からすると当然だ。

11/11(火)

朝、双楡樹早市に。人民大学前を北に歩いてから東に右折。宋状元粥店があった。状元とは、科挙で第1席になった人物のことだから、宋家の誇る味の粥なのだろう。農業科学院の裏の店よりここの方が近そう。

梨、ミカン、サヤエンドウ、椎茸、山芋、丸なす、丸い赤大根、蕎麦、条饅頭を買う。条饅頭を蒸かして朝食。梨は甘いし、ミカンも美味しい。赤大根のサラダも良い。この国なら、菜食主義も楽しめそう。

2年生の授業は、近代日本の戦争。西太后が頤和園に資金を注ぎ込んだので、北洋艦隊の増強ができず、日本艦隊に敗れた話。義和団事件で8カ国連合軍が円明園を壊したが、主犯はフランス軍とイギリス軍だった話。などするうちに、西太后の歴史的評価の議論になった。則天武后との比較、現代南アジアの女性大統領・首相との比較、日本には北条政子以後は政治的影響力を持った女性はいないことなど。本題からは逸れたが、面白い話になった。

帰って、とろろ蕎麦を楽しむが、恵子も元もまずくて食べられないという。味覚が鈍化したのかとも思



うが、少しは蕎麦の味もするのだから、贅沢は言えない。

新聞を読む。トップ記事は、エイズ。SARS 対策に注いだ努力を、HIV 対策にも払うべきとの主張。中国の HIV 患者は、公式には 4.5 万人とされるが、推定では、発症患者 8 万人を含めて感染者は 84 万人に及ぶから、早く対策を採らないと、極めて深刻な状況になると警告している。昨日、人民大学の構内でパネル展示があったのも、HIV だった。貧困地帯の売血も感染者を増やしているらしい。2 面には、訪中したクリントン前大統領が、HIV 対策を後援する発言をした記事。ブッシュ元大統領は政治の民主化支援、クリントンは HIV 支援と、なかなかの分業だ。

3 面は、大雪で大木・老木が大きな被害を被ったとの記事。中山公園や景山公園も被害甚大らしい。友誼賓館の老柳も無惨に枝を折られたが、今日見ると、根本から切り倒されている。芯が腐って空洞になっているから、切り倒すしかなかったとフロントの日本語のできる人が説明してくれたが、他に対応策もあっただろうに。

3 時にタクシーでセンターへ。外国語大学の入口では、検問が始まっている。SARS 対策とのこと。身分証明書を見せて入校。4 時から、論文講読茶話会で、「資本主義は何故速く成長するか」を話す。中文と日文の論文をコピーして読んで貰って置いた。宋先生が司会をしてくださる。社会系以外の院生・卒業生も聴講してくれた。

経済成長体質の資本主義に人類史の将来を任すことはできない、新しい経済システム、多分、社会主義に近いシステムの開発が緊急の課題と話す。科学技術の進歩が人類を救うのではとの質問には、原子力は新しいエネルギーではなく、石油に換わるエネルギー資源は未開発の現状では、成長にブレーキをかけるのが先決と答える。宋先生、代田先生も発言しての、活発な会になった。

夕食は、サヤエンドウの卵綴じ、椎茸炒め、カボチャサラダなどの菜食。皇軒ブランドのワインを開ける。軽いボディのワインだ。36 元にしては飲める。

11 / 12 (水)

朝、双楡樹早市へ。紅色の斑点のあるインゲン、大きなピーマン、小さい青梗菜、長なす、うどんを買って、成都小吃で包子と餃子。

インゲンは茹でてでも紅色は少し残るが、モチモチした食感は悪くない。ここには、日本より多くの種類の豆類があるようだ。青菜類もそうだ。

なんとなく食後を過ごしてから、切れた蛍光灯を買いがてら、大中電器から利客隆スーパーへ。豚肉、焼鶏、サヨリ、茉莉花茶、牛乳、卵を買って帰る。蛍光灯をはめ込んでも点灯しない。コンセントを替えても、スタンドを替えても点かない。やむなく、畔上さんに電話でお願いします。

とろろ蕎麦で昼食。例によって新聞を読みながら昼寝。新聞のトップは、純粋な国有企業がますます消滅するだろうとの記事。株式会社化するとともに、株式の所有者が国家ではなくなるからということだが、国家所有分は続くのだから、さほど意味があるとも思えない。

チベット羊をカシミア山羊が「スケープゴート」になって助けるという、少しややこしい話。高地に棲むチベット羊の毛は、動物毛としては最高に細く、7~9 ミクロンで、最高級の毛織物になる。したがって、チベット羊は、密猟の対象になってレッドブックに載る。カシミア山羊の毛は、9~13 ミクロンで、代替性があるから、カシミア山羊の増殖によって、チベット羊が救われるかもしれないとのこと。さて、上手くいくことか。

午後から夜に、原稿を書く。

サヨリの塩焼きは、懐かしくも美味。

11 / 13 (木)

オートミールで朝食。7:40 のバスでセンターへ。1・2 年生の授業は、バブル経済。1970 年代を世界経済の転換期として位置づけ、プラザ合意、円高不況対策、過剰流動性発生、バブル、マネーゲームと話す。エクイティファイナンスやデリバティブズについては、元も説明するが、技術的な点まで判ってもらえたか、やや不安。なにしろ、経済・経営の専門的勉強をしていない院生が多いのだから。

フォーブスが挙げた中国の富豪の漢字名を院生に訊ねて書いてもらう。第 1 位の Ding Lei は丁磊、第 2 位の Rong Zhijian は荣智健だ。アメリカヤフーで検索すると、Ding は、電子科学技術大学出身の 31 歳で、1993 年にチャイナ・テレコムに入社、1995 年に Sybase(China)のプロジェクトマネージャー、1996 年から広州 Feijie 社のシステムアナリストをつとめ、1997 年 5 月に広州 NetEase を創設した。そして、1999 年に NetEase.com を創設して、CEO となり、現在は Chief Architect になっている。海亀組ではなく、中国学士号だけの起業家だ。

購入図書を選定作業を元に頼んで、送迎車で帰宅。炒飯で昼食。

新聞には、深セン経済特区で、子供の誘拐グループが検挙された記事。今年に入ってから、3~4 歳中心に 10 人の子供をさらって、1000 元~8000 円で売り飛ばしていた。出稼ぎ農民の子供を、広東省内



の農村に売ったとのこと。ひとさらいが、今でもあるとは驚いた。

元は4時のバスで帰宅。作業はまだ終わらないとのこと。

煮豚、煮ナスなどで夕食。

原稿を書くが、スローペースだ。

11/14(金)

双楡樹早市へ散歩。梨、ミカン、キャベツ、椎茸、うどんを買う。帰路、ブドウパンも。椎茸は肉が厚く炒めると美味しい。ミカンも甘い。ブドウパンは、まわりに干しぶどうを付けただけで、中には入っていないという不思議なモノだった。

新聞は、アメリカとの貿易不均衡是正のために、航空機と自動車の輸入を増やす政策がトップ記事。土地管理法の改正準備の記事は、土地収用に際しての補償を公正におこなう必要を主張している。地方の耕地は、1畝(ムー、6.667アール)当たり300元程度の補償しか支払われないのが普通で、北京の5環状路内部の耕地には5000元支払われているのと較べて格差が大きすぎるという。

山西省で、公害発生工場を取材中のテレビポーターが襲われた記事。コークス工場の撮影をしたレポーターが、工場主につかまり、カメラを取り上げられたうえに、労働者にスコップで殴打されたという。このところ、環境問題が盛んにマスコミで取り上げられているが、末端では、こんな事件が起こる有様だ。

関税を無くしたら価格が上がった話。10月1日から中国・タイ両国は果物・野菜の関税を廃止したが、広州市では、トロピカルフルーツの輸入が60%以上も増えた。内需が旺盛なので、価格はドリアンが30%、龍眼が52%、ザボンが70%も上昇したという。流通機構にひずみがあるに違いないが、沿岸部随一の発展都市の活力を象徴する話かもしれない。

10月からの消費者物価指数の上昇の記事。穀物価格を中心に、CPIは、10月に前年比1.8%の上昇を記録した。これは、1997年9月以来の高い数値で、一部にはインフレ懸念が出ているが、政府筋は、供給力が拡大しているから1993-95年のようなインフレにはならないと見通している。経済学的には、人民元の安値が、国内物価上昇に繋がる可能性はありうるから、今後の動向を見守るべきだ。

地方紹介欄では、黒竜江省の雪と氷の季節を特集している。ハルビンの氷祭りは有名だが、スキー場も整備されつつある様子。一度、滑ってみようか。

昼食は、ざるうどん。恵子は、人民大学西門前のスーパーに一人で買い物。残る二人は昼寝。

トンカツで夕食。原稿は進まない。

11/15(土)

朝は、双楡樹早市へ。ドジョウインゲン、カリフラワー、マッシュルーム、青菜、ライチー、白菜を買う。ライチーは少し小粒になってきたが甘い。白菜は2キロで2元。

新聞は、女子バレーチームが去年の覇者イタリアに勝った写真が中央。昨夜、李先生が、土曜日夕方から対日本戦の中継があるので、会うのは日曜日にしようと電話してきたわけだ。日本戦に勝てばワールドカップ優勝のようだ。ユニバシアードでも南開大学チームが優勝しているから、中国バレーは強い。国際欄にはドイツが原子力発電所全廃へ向けて32年稼働した原発を停止した記事が載っているが、国内欄では、中国国営原子力会社が、外国製装置の輸入を国産に切り替える方針が報じられている。エネルギー問題は、水問題とならぶ将来の大問題だ。

昼食には焼き餃子を食べようということになって、一人で人民大学西門前の城郷スーパーに買出しに行く。公共バス基地の再開発現場では、3環状線沿いに中国石化のガソリンスタンドができるらしく、もう屋根が出来上がっている。なにしろ建築作業のスピードは驚くほど早い。ここの立体交差は蘇州橋と呼ばれている。外国語大学前の通りは、西3環路になる前は蘇州街路という名称だったからだ。乾隆帝が蘇州で見初めて北京に連れてきた美しい尼さんが、ホームシックにかかったのを慰めるために、ここに蘇州そっくりの街並みを造ったという話が伝わっている。

スーパーで、6、7種のなかから2種の餡を指定して餃子をつくってもらおう。500gで7元。粽や甘そうなお菓子、牛乳、フライビーンズも買う。餃子は美味しかった。粽はナツメ餡、蒸しパンもナツメ入り、糯米のお菓子にもナツメが入っていた。選択ミスで、評判が悪かった。

昼寝と昼風呂でのんびり過ごす。ドッジと360円レートの関係を調べたが、どこまでがドッジの判断かは確定できそうにない。

武蔵丸の引退を決定付けた対土佐の海敗北戦を観た後、チャンネルを回すと女子バレー中日戦の中継。やはり、中国が強い。個人の自己主張が強い中国人には、団体戦よりも個人戦の方が向いているという話があるが、バレーではチームワークの良いところを見せている。最近、東洋の魔女たちは、自己主張が強くなったので、日本チームは弱くなったのか？はたまた、ハングリー精神の欠如のためか？まあ、ハングリーになった日本企業が企業チームを持ちきれなくなったのが直接の原因だろう。

カツ丼の夕食。生の（草冠の下に悠の上部）麦菜のゴマだれサラダも美味しい。この青菜は、日本でも人気ができるだろう。

11/16(日)

朝、双楡樹早市へ散歩。もう銀杏はほとんど葉を落とし、白楊も葉を丸めてきた。白楊は、緑色のまま落葉する。槐の葉も黄ばんできた。人々はダウンジャケットを着始め、犬も防寒服を着せてもらっている。狆のセーター姿はいかにも珍妙だ。

早市のまわりには、馬車が4台停まって、梨、柿、芽だしニンニクを売っている。路上では、ト口箱ひとつに入れてきた鯉や冷凍魚を売る人、四隅にひもを付けた布に衣料品や雑貨を並べる人など。キルトのズボン下は人気のようだ。キュウリ(3本2.2元)とウドンを買う。

写真館を探して双安商場のあたりを東に歩くが見あたらない。「青山経済論集」記念号に載る写真を、凄腕の中国写真屋に撮ってもらおうと思っているのだが。遠回りして成都小吃で包子と餃子を買う。

本のことで東大出版会と日経評論社にメール。来年度の購入図書在庫確認。

恵子の炸醬面で昼食。なかなか上手になった。元を残してイケヤに。膝掛けを39円で買って、入口で李先生と待ち合わせ。ほどなく先生が来て、隣の花弁市場へ案内してくださる。あふれるばかりの切り花、鉢物、細工花。花台や花生けも売っている。竹細工のボタンをあしらった筆立てを購入(35元)。前から筆立ては買いたかったから丁度良かった。

タクシーで潘家園旧貨市場へ。常設売店と屋根がけ売店と露店がところ狭しと立ち並ぶ壮観。ピンからキリまでの、布帛、陶磁器、木竹紙製品、金属鋳物などを売っている。熊の木彫りを見つけて、150円まで値切って購入。親子2頭の彫りが素晴らしい。

茶碗もあるが、使い物になりそうな碗は少ない。カボチャ形の急須を購入(50元)。いろいろ魅力的な品物が多い。また来ることになるだろう。

李先生のご自宅にまた伺う。超現代的なマンション団地のすぐ裏に、昔風の巨大な生鮮市場と焼き栗などの店、そして近代的スーパーがある。近々、アメリカのスーパーも近くに店を開くとのこと。李先生は挽肉、白菜などを購入。

ご自宅では、ご主人が餃子を作る準備をしてくださっていた。お嬢様の結婚記念ワインをいただく。ご主人には、感謝の言葉がない。李先生から中国茶の作法も教えていただく。

今度は、私たちの部屋にお招きすることを約束してお別れ。

11/17(月)

朝は理工大へ散歩。検問がおこなわれているかもしれないので、工作証(身分証明書)を持参したが、なんなく構内に入れた。大学によって管理方式がちがうようだ。

食堂の前の包子を買おうとしたが、授業にいそぐ学生がわれ先にお金を突きだして買うので、なかなか難しい。ようやく1籠買ったら、10個で2.5元だった。焼き餅も買う。

裏門を出ると、道路にかぶさるように傾いて生えていた槐の大木が切り倒されている。雪で傾きが増したためなのか、前から邪魔にされていたのか、まあ思い切りのよすぎる樹木管理だ。

新聞は、女子バレ-優勝写真記事がトップ。並んで、交通事故死が急増しているとの記事。3月の運転手調査によると、高速道路の運転中に居眠り運転をした経験者は10%もあり、24%が激しい疲労感を持ちながら運転していたと答えている。タクシー運転手は、14時間就労が普通のように、この間2時間は睡魔に襲われての運転という。交通問題専門家は、先進国でも自動車急増とともに交通事故は増えるものだと語っているが、この国特有の問題点があるように思われる。昨日も、双楡樹の交差点で、赤信号を無視して通り抜けるトラックを見かけた。人が信号無視するのは当たり前になっているし、常時右折可で曲がってくる車は、歩行者優先などとは全く考えていない。

朝食後、明日のレジュメをつくる。

スパゲッティで昼食。昼寝をしながら、竹中憲一「北京歴史散歩」(徳間書店)を読む。1978年から1986年の間に北京で教鞭をとりながら、足で歩いて書いた文章はとても面白い。乏しい見聞の限りでも、その後の変化の激しさが判るところもある。

齊白石故居探訪の章では、彼が、日本軍の将校が強要しても絵は描かなかつたし、日本支配下の北京芸術専門学校から贈られた石炭を突き返して蟹の絵を描き、年々数が減るといふ贅を書いて敗色濃い日本軍を皮肉ったということをお教えされた。彼の絵は素晴らしいという話をしたとき、院生のひとりが、あの墨絵の川エビはとても美味しそうと言ったので、皆で大笑いしたことを思い出した。たしかに、唐揚げにしたい川エビだ。

夕食は、酢豚とジャガイモ炒め。脂身のない肉だったので味はいまいち。スターチも片栗粉とちがってとろみがかず、酢豚離れしてしまった。本格的な中華料理を食べに行こうという話になり、恵子はさっそく調査に入る。

11/18(火)

少し早く散歩に出る。6時半だがまだ薄明りで、通行量も少ない。双楡樹公園は、グループをつくったり、おもいおもいに体操をする老人たちでにぎわっている。早市で、椎茸と卵(24個で7.9元)焼き餅を買う。永安大王では父親と中学生の男児が麺を食べ、マクドナルドでは小学校の女兒と両親がなにかを食べている。朝食を家でとらない家庭も多いらしい。李先生も朝の送迎車で役所にでかけて食堂で朝食をとるようだ。

2年生の授業は、資本主義の発展段階を略述したうえで井上・高橋財政を20世紀資本主義の経済政策として位置づける話。福祉国家のイメージは判ってくれたようだ。市場経済化しつつある現代中国が目標とする小康社会は、福祉国家の一種ではないかという点について議論できた。1970年代を境に、福祉国家からの旋回が始まるという話に関連して、日本の年金改革が話題になり、さらに少子高齢化から中国の一人っ子政策見直し問題に話が及んだ。

そこで、皆さんの時代には何人でも子供を持てるようになるかもしれないが、それを望むかと質問すると、そうですとは答えが返らない。教育のことを考えると多くの子供は持たない方がよいとの答えもある。中国に限らず、現代の若者は、少子を望むという共通したところがあるようだ。江戸時代にも、都市上層には、少子化傾向が現れたという指摘もあるから、生活水準の上昇と教育文化関連支出の拡大は、少ない数の子供への集中的な育児費投入を好む傾向を生むのだろう。

タクシーで帰って豚しゃぶの昼食。李先生が、ビザ延長のことで電話をくださる。公安局出入境管理処へ電話するが話し中が長くてかからない。ZSさんに電話して、授業のない3年生のZWさんを探してもらって友誼賓館へ来てもらう。ZWさんとYMさんが来てくれて一緒に管理処へ行ってくれる。パスポートとビザを管理する大きな役所で、どの窓口かちょっと判らない。二人が担当係を見つけてくれてビザ延長の手続き方法を訊いてくれた。

一回の滞在期間が30日に限定されている数次ビザを、一回の滞在期間制限のない数次ビザに切り替えられることが判明した。ビザ取得時からそのような数次ビザが取れば良いのに、それはできないらしいから、入国後に滞在期間制限のないものに切り替えれば良いわけだ。お二人のお陰で、ややこしい話がスムーズに処理できた。

専家食堂で夕食。牛肉の黒胡椒煮など4品、ビールで44元。

10時からBSで元ちとせのレサイタルを観る。定番曲中心の構成で、なかなか良かった。テレビのスピーカー性能が良くないのが残念。アルバムの写真より可愛い南島娘だ。

11/19(水)

雨が降っているので散歩には出られない。オートミールで朝食。7:40の車でセンターに。ビザ変更北京外国語大学の外事処のハンコが必要なので、必要な書類の作成をお願いします。10:10の送迎車まで、ネットや図書館の日経新聞、エコノミストで最新情報を収集。北京郊外の野生動物園で、近道をしようと柵を乗り越えて園内に入った建設労働者が、虎に殺された話にはビックリした。一度行きたいと思っているサファリパークでの事故だ。同僚は、飼われている虎だから生き物は襲わないだろうと思ったと話している。ハルピンの東北虎公園では、入園者が生きた鶏や子牛を買って虎に生き餌をやるショーがあるくらいだから、サファリの猛獣も、人間に遠慮はしないだろう。近道をしたいほど草臥れていた出稼ぎ農民だろうから気の毒だ。

大阪市立大学経済研究所の編成替えの裏話がエコノミストに出ている。伝統有る研究所だったが、実質的には解体したようだ。内部の人間関係の複雑さから、解体阻止の内発的エネルギーが出なかったらしい。共同研究重視の運営方針が、研究者の自発的研究意欲を削いだとも書かれている。元研究所教員の文章だから、説得力がある。東大社研はどうだろうか？

帰宅して正午のNHKニュースを11時に観る。ザルウドンの昼食。新聞のトップには、台湾独立への動きを強めている陳政権に対して、台湾問題担当副大臣が独立は戦争を引き起こすと警告した記事。台湾独立の動きに関する記事が一面に出る割合はかなり多いが、戦争とまで明示した発言は珍しい。台湾問題はこれから一層重大性を増しそうだ。

文化欄は、全面が海外へ流出した文化財の里帰りの記事。第2次阿片戦争での英仏軍による円明園略奪から、義和団事件の際の8カ国による故宮略奪、敦煌文書の持ち出しなどなど、先進国による文化財略奪の事例を列挙しながら、最近、中国系コレクターによる買い戻しや寄贈で里帰りするものも増えているとのこと。

1920年代に洛陽の竜門石窟から切り出されて世界を転々とした仏頭2つが、中国系コレクターの手に渡り、中国文化財修復基金の竜門石窟復元計画によって買い取られて、頭部を失ったまま残されていた仏像にふたたび接合される話が、写真入りで出ている。頭部を失った仏像は方々で見かけるが、このように元に戻る仏像は稀だろう。中国仏像は、文化大革命でも破壊されているから、長い受難の歴史だ。

古文物への関心が高まることは良いことだが、各地の博物館が、良品を購入しようとして競争的に価格を引き上げているのは税金の無駄遣いだという指摘もある。文化財へ目が向くことは経済成長の成果のひとつではあろう。同時に、値上がり期待での投機的な古文物売買も盛んなようで、これも、市場経済化の成果！

夕方、雨もあがったので双安商場に買いだしに行く。ヒラメを1匹(44元)、牛乳、粽、冷凍餃子など。鮮度も良いので、刺身にできるかと元がおろしたが、身は柔らかくしまりが無い。昆布メならいけそうだが昆布がない。刺身はあきらめて、バター焼きにする。

夜は原稿書き。ドッジの330円レート提起の意味が少し見えてきた。

11/20(木)

粽で朝食。送迎バスでセンターへ。1・2年生の授業。バブルの時代をモノ作りとカネ作りの2面から捉えて、カネ作り上手・モノ作り下手のアメリカとモノ作り上手・カネ作り下手の日本の対照を話した。まくらは、商品・貨幣・資本の本性論。アメリカについては、生まれながらの資本主義、その民主性と暴力性、投機性と効率性を説明。日本については前近代からのタテ社会・ムラ社会の伝承、明治維新・敗戦後の後進性意識、日本株式会社を説明。護送船団方式、投機のゼロサム・ゲーム性についての質問に答えた。

10:10の車で帰宅。新聞トップは、アメリカが中国繊維品に輸入数量割当制を適用しようとしていることを伝える記事。WTO加盟後に撤回された割当制を復活させることは、両国の経済関係に悪影響をおよぼすと主張。小泉再選の記事は、イラク派兵などの大きな問題を抱えていることを客観的に書いている。

社会記事では、中国の自殺率が高いこととそれへの対応を伝えている。国際的には10万分の15程度の自殺率が、中国では10万分の18と高く、とくに若い女性の自殺率の高さが目立つという。年間30万人の自殺者のうちで、80%は農民が占め、殺虫剤によるケースが大多数。不幸な結婚、家庭内の軋轢、経済苦から、若い農婦が自殺に走る。対策としては、電話相談のホットラインの開設、避難施設の設置、殺虫剤の規制などが取られている。

日本の場合、1990年代前半は10万分の16程度だったが、後半に急増して世界一の高さになり2000年には10万分の25ラインに達している。中高年の男性の自殺率が高いのが日本の特徴だ。バブルで躰いた資本主義にしての世界一はいたしかたないとしても、中国の数値の高さには考えさせられる。市場経済化は、自殺率にどのような影響を及ぼしているのか、知りたいところだ。

お好み焼きの昼食後、センターへ。清水先生の日本学総合講座「明治日本と清末中国のメディア文化交流」を聴講。戊戌変法失敗後、日本に亡命した梁啓超が、「新文体」を創り出すに際して、明治期の「帝国漢文」とそれをういた演説会や新聞が大きな影響を与えたという内容。漢文読み下し体、漢文訓読体は、江戸時代ではなく明治期に入って広く使われるようになったもので、それには自由民権運動の用語法と教育勅語の用語法という内容的には相対立するがエクリチュールとしては同一の流れが作用した。江戸期の漢文と民間口語という二層言語構造は、明治の大新聞と小新聞の2カテゴリーの用語法に引き継がれるが、明治20年代に入って読売新聞や国民新聞が中新聞として登場し、ふりがなを付けた漢文読み下し体を普及させ、二層言語構造の中間に介在する中性的エクリチュールを開発した。これが、梁啓超の中国語新文体に影響を与えた。

極めて興味深い論旨で勉強になった。例の質問癖から、「帝国漢文」は二層言語構造を解消させたのか、また「帝国漢文」の支配機能を考えると「国民漢文」というよりも「臣民漢文」ではなかったのかを質問、あわせて、貨幣と言語の類似性をコメントした。清水先生も、あえて「帝国漢文」と命名したのはその帝國的支配機能を意識してのことで、それによって二層構造が解消したとは考えておられないとのこと。また、東京大学博士論文は、イブセン「人形の家」の日中両国での受容比較で、副題には「恋愛・貨幣・国民国家」という言葉をつかわれたそう。読んでみたい論考だ。

帰宅後、カルフルへ出かける。隣の上海料理の店で夕食。黄色い鶏の冷菜、川エビの唐揚げ梅干菜(高菜漬風のもの)まぶし、アスパラガス清炒、炒飯、ビール。180元はやや高いが、味は良かった。

カルフルで明日の食材・スパークリングワイン・ビールなどを仕入れて帰宅。

BSでコン・リーの主演映画を見る。昨夜の「菊豆」は、眠くて見なかったが、今夜の「秋菊...」は最後まで観た。夫を蹴った村長の謝罪を求めて、巡査、郡・県・市の和解調停を受け入れず、下級裁判所から2級裁判所にまで提訴する農婦秋菊の話。出産時に村長の協力で母子ともに救われたことで、秋菊は村長に感謝して誕生祝いに招待するが、その日、裁判所の判決で村長が拘留されてしまうという幕切れ。妊娠した農婦の役は、よごれ役だが、彼女は上手く演じていた。1990年代初期の中国の農村・司法の姿も面白かった。行政的調停か司法的裁判かは、社会のあり方の一面を示すリトマス試験紙だ。秋菊の選択は、中国では例外的なのではなからうか。これも研究に値する問題だ。

11/21(金)

朝は、恵子と双楡樹早市へ買い出しに行く。昨日からの風で、白楊の葉が大量に落ちて道に積もっている。梢の方は枝の間から青空が見えてきた。ジャガイモ、ニンジン、カボチャ、タマネギ、いんげん、ほうれん草、青菜、ミカン、うどんを買う。かなりの重量だが、支払いは20元ほど。

講義レジュメをつくる。恵子たちは、夜の料理作り。カレーライスで昼食後、センターへ。

2年生の修士論文中間報告会で、宋・周・呉3先生と1・3年生の前で、15分報告15分質疑。LeYさんは「日本におけるインターンシップについての初期的考察」、WQさんは「新入生の大学への適応についての分析 エリート大学生文化類型の形成を通じて」、ZYiさんは「都市初期高齢者の社会的適応についての一考察 パーソナル・ネットワークの再構築をめぐって」、LiYさんは「在日中国人就職者のアイデンティティの再構築についての考察 その社会的適応をめぐって」。社会学関係のテーマだから詳しいコメントはできないが、日本の現状を知る立場からいくつかアドバイスした。日本でアンケート調査やインタビューをするのがこれまでのやり方だから、なかなか大変だ。

5時過ぎから共同利用室で会食。3年のZWさんとお子さん、WRさんも加わって、冷シャブ(豚)、コロッケ、ポークピカタ、天ぷら、ほうれん草おひたし、インゲンごまよごし、ちらし寿司、カレーライス、みそ汁、白玉団子の手料理と出前のピザでにぎやかに宴会。日本の家庭料理はとても気に入ってくれたようだ。料理ができる男として元の株が上がった。中国で結婚しても大丈夫とか。

卒業後の進路については、やはり、地方大学へは就職したくはなく、大都市で生活することを望んでいる。平等な社会として社会主義が良いと言ったら、あまり賛同は得られず、能力に応じて所得に差がある社会の方が良いという。アメリカのような民主主義社会が良いとの発言もある。若者たちは、古い中国社会主義が好きでないようだ。エリート達だから、もっともなことではあるが、ノブレス・オブリージも感じて欲しいものだ。

11時過ぎに散会。

11/22(土)

朝寝、朝風呂。元たちは、ピザ変更の申請にでかける。昨日のアルコールがまだ残っていて眠いので、また朝寝。ひとりで、カレーライスの昼食。

昨日の新聞1面は、アメリカの鉄鋼特別関税問題、スイス大統領訪中、トルコのアルカイダ自爆事件などを報じている。2面には、都市ゴミの話。中国都市の固形ゴミの約半分は、そのまま捨てられて土壌汚染などを引き起こしている。ゴミ処理施設は、1992年の371から2002年には651に増加したが、都市における固定資本形成に占める環境衛生投資の割合は、1999年の3.18%から2002年には2.08%に低下しているとのこと。

重慶特別市の巫山市では、長江三峡の山の上に自由の女神よりも大きい138mの女神像を建てる計画が問題になっている。巫山市は重慶特別市のなかに12ある国家助成を受ける貧困市で、去年の住民の年間平均所得は1453元と、全国平均の2476元をはるかに下回っているのに、1億元もかけて女神像を建てるのは不見識だとの声が高まり、市当局はあわてて、アイディアだけと弁解している。女神は山中にとどまり、空虚壮大な夢は長江の水に流す方が良いと論評。

見えないところのインフラ整備が必要なのに、外見が良い装飾的な設備に金をかける傾向はどこにでもあるようだ。北京市にしても污水处理が十分でないままに公園がきれいに整備されている。天津市の運河船遊び公園にしてもそうだ。日本のハコモノ造りも似たようなものだ。行政担当者は、モニュメントが好きなのだ。

午後は原稿を書く。結びの一番の時に元たちが帰宅。ピザ申請をしてから、紅橋市場で買い物をしたようだ。店員と顔見知りになり、値切り交渉が早くまとまるようになったとか。賓館のATMで払い出しができなかったのが、われわれの資金はショートしそうだ。あり合わせで夕食。

BSで「地獄の黙示録」を観る。ノーカット版と前宣伝が盛んただけあって、見ごたえがあった。ベトナムのフランス人コロンたちが、ここは自分たちの土地だからわれわれは戦ってそれを守るが、アメリカ人はなんのために戦うのかと問いかけ、最大の無意味な戦争だと語るシーンは、上映時間の関係でカットされていた部分で、 Coppola監督の意図が明確になる。

主演のマーチン・シーンが俳優志望の大学生に語る附録番組では、彼は、政府批判のデモに参加して64回も逮捕されたと話していた。ガンジーを演じた時に知ったタゴールの詩を暗唱してみせた。なかなか骨のある役者だ。

次の中国映画、「桃源鎮」も観てしまった。権力者の村長に豆腐を贈ってきた豆腐屋が、村長に収賄嫌疑がかかってから右顧左眄する姿を哀歓を交えて描いた作品。権力末端の腐敗ぶりがよく分かって面白い。

11/23(日)

朝は、双楡樹早市へ。通りの槐並木の樹には下から1mほど白い塗料が塗り直されている。中国では普通に見受けられるが、除虫を目的とした処置らしい。キレイでしようという人もいたから、装飾のつもりかもしれない。野菜と果物を15元ほど買う。中国産キュウイは大きいものが5つで5.5元。しゃりしゃりした食感が珍しい。成都小吃で定番の包子と餃子。友誼賓館の正面にはクリスマスツリーが立てられている。アパートの門の柱にも金の蝶結び飾り、フロントのガラス扉にはサンタクロースの絵。新聞は、台湾の陳首相が汚い手を使おうとしているとの批判記事がトップ。陳首相は2006年12月までに憲法改正を行い、2008年5月20日に新憲法を施行することを計画しているが、これは、北京オリンピックを人質にして台湾独立を強行しようという陰謀だと批判する研究者の見解を報道している。このタイミングで独立を宣言しても、オリンピックを重視する中国は、武力行使しないだろうとの陳首相の読みは間違っている、主権とオリンピックを秤にかけてオリンピックを選ぶような国はどこにもないと警告。コルシカやケベックの例を引きながら、一国内では一地方が住民投票によって独立を決定する権能は無いとするのが国際法の解釈で、陳首相の国民投票は無効としている。このところ、台湾への牽制球が多い。

韓国の元従軍慰安婦が、強制的に働かされていた南京の慰安所跡を訪れて涙した記事。Pakさんが1939年8月に朝鮮北部から警察に拉致されて南京に連れてこられた時が17歳で、毎日、20~30人の相手をさせられ、1943年には雲南省の日本軍の前線基地へ移動、1944年の戦闘の際に中国軍に保護された。当時、妊娠していたPakさんは、墮胎したが子供を産む能力を失い、独身のまま養子を迎えて今日に至った。華東師範大学の研究者は、元慰安婦がかつての慰安所を訪れる勇気を褒めて、中国人が避けていたことを韓国人がおこなったことで、中国の元慰安婦たちにも励ましになると語っている。1面に詳しい記事を書けることは、中日間の未解決な問題として、従軍慰安婦問題を重視している姿勢を示している。毒ガスと慰安婦の問題には、明確に対応すべきだ。

カレーうどんの昼食。

原稿を書き続ける。そろそろ制限枚数になるが、まだ終わらない。

あり合わせの夕食後も、書く。

11/24(月)

朝は、3環北側の成都小吃と杭州小籠包で包子を買う。3元と2.5元だが、ほとんど同じ質量。価格差は、店構えの違いによるのだろう。

郵便出しと切符買いに行くが、賓館のATMはまだ使えず、道の向こう側の中国工商銀行へ行っても使えない。回線の故障のようだ。部屋に戻って日本円を持って賓館で両替してから、明日の天津行き切符を買い、郵便局でEMSを発送。

新聞は、温首相の台湾問題についての発言をトップに掲載。1国2制度の平和統一が唯一の解決法と穏やかに主張している。来月、温首相が公式訪米するようだ。中米間の懸案事項は多いから、重い訪問になるだろう。

昼食は、恵子のインゲン饅頭。インゲンを細かく輪切りにして挽肉とオリーブで炒めた餡入りで美味しいが、粉の具合がもうひとつ難しいようだ。

ドッジ・ラインの評価を書き始めるが、いくつか難所がある。エンヤを聴きながら考えるが、まだすっきりしてこない。

センター派遣教員としての引継報告書と木曜日の講義レジュメをつくる。

夕食は雅園食堂。看板にWestern Restaurantと書いてある上に中国語ではロシア料理店と書いてあるのに気付いたので行く気になった。西式のメニューを初めて見たが、ロシア風なのはボルシチ程度で、それもいささか甘すぎてダメ。他はいつもの中華ディッシュにした。4品とビールで49元。

11/25(火)

朝、理工大の焼き餅を買う。3環の中国石化のスタンドは、もう開業している。3種類のガソリンと軽油。ここには、可燃物貯蔵のチェック制度があるのだろうか心配になる。

9:30のバスでセンターへ。2年生に「15年戦争の帰結」を講義。満州事変以来の経緯を話す、20世紀資本主義の限界で天皇制ファシズムが国民統合の機能を果たすというところは分かりにくかったようだ。ドイツの国民生活水準の低下とは較べものにならないくらいの生活低下があったのに、日本人は、ただ黙って耐えたのはなぜかを説明した。質問は、天皇の戦争責任。責任があるが、アメリカの対日政策の関係で免責になったと答えて、ここから、戦後日本の戦争責任の曖昧さが生じたことを指摘。さらに、天皇制ファシズムについての質問。ドイツ・イタリアのファシズムとは異なるが、日本的な権威主義的抑圧の体系を天皇制ファシズムと呼ぶのが日本の歴史学者。しかし、政治史研究者は、この呼び方には賛成していないとも話す。

あの戦争について日本の若者はどう考えていますかの質問には、元が答える。無関心の若者が多いが、



これは、大学入試の出題傾向が、近代史止まりで現代史は少ないことにも関係している。重要な問題だから考えている若者もいるが、来年日本に来たときには、中国の現代史教育と日本の歴史教育にギャップがあることを考えて、日本の若者と対話をして欲しいと話す。

中国の若者にとって、歴史認識問題は、やはり大きな関心事であることがよく分かった。両国の若者の間で、相互理解を深める必要性を、改めて感じた。

昼食後、北京駅へ。タクシーで西直門、そこで地下鉄というルート。これが一番早そうだ。

北京駅のプラットフォーム増設工事を待合所の窓越しに観察。じつにのんびり働いている。それでも数が多いから、鉄筋の組立はかなりのスピードで進んでいる。オリンピックまでには、見違えるほど変わっているのだろう。

天津までの沿線風景は、もうすっかり冬、冬枯れ。施設園芸農家だけが、屋根に箆を下ろす作業をしている。タクシーで南開大学正門まで。外部タクシーは構内に入れないから、歩いて日本研究院へ行く。楊先生と久しぶりの再会、青山での武先生講演の話をつかぐ。実現できて良かった。武先生は、広州の国営企業の再建を成功させた実力者でもある。リストラで管理職を削減するときには、200人の管理職を集めて、残って会社再建に当たるべき人物40人の名前を全員に書き出させて、上位40人を選ぶという手法を取ったそうだ。驚くべき民主主義だ。

楊先生は先約があるので、宋先生と専家楼食堂で夕食。フナと大根の煮込みスープが美味しかった。フナがあれば味の味を出すとは意外だった。

愛大会館に投宿。夜、石先生から電話があったので、梁啓超関係論文を取りに来てもらう。研究に参考になるだろうと思って、清水先生から戴いてきた研究論文数点。石先生は喜んでくれた。ご主人の沈先生は、新しく購入したマンションの内装に忙しいようだ。台所や浴室の設備はもちろん、木材や金具にいたるまで自分で選定し購入して大工に渡すというから大仕事だ。大工から不足する部品の電話連絡があると、すぐに調達して持って行く。安全で質のいい材料を使える上に安上がりというメリットがあるとのこと。沈先生が研究時間を失うのがデメリット。

11/26(水)

朝起きると雪が積もっている。散歩に出ると、はじめての南開大学雪景色がきれいだ。「我是愛南開的」の石碑ではレリーフの周恩来さんの眉毛に雪が積もっている。幼稚園に子供を送りに来る自家用車の数が増えたような気がする。

早めに日本学研究院にいくと楊先生がバイクで出勤。先生ご自慢の前庭庭園を背景に写真を撮る。敦煌で購入した模写の軸仕立てを陳先生にお願いする。一緒に、院長室に進呈する飛天の絵の額縁の調達もお願い。

9時から講義「資本主義の新しい段階」。発展段階論の研究史を話した上で、共同体・社会的余剰・再生産調整機構の3位相から歴史社会の経済的構成を区分する方法を、資本主義の発展段階区分に適用する仮説を語る。楊先生から段階区分の日本への適用の問題などの質問。おおざっぱな時期区分を描いてみる。話に時間をかけすぎて院生諸君との質疑時間が少なかったので、次回に回す。

楊先生夫妻・王・宋・趙・劉先生と昼食。驚いたことに、王先生を除く4先生が皆さん新しいマンションを購入したという。楊先生の200平方メートル(共用部分を含む)をはじめとして160平方メートル以上の広い分譲マンションで、来年早々に完成する予定。内装は別にやるので、皆さんその話で持ちきり。趙先生は日本間を作る予定。沈先生のように材料一切自己調達では仕事と両立しないので、基本的な設備・材料は揃えて、あとは業者に任せるらしい。最近、内装済みの分譲もあるようようだが、まだ、少ないとのこと。自分の好みの内装ができるのは楽しそうだ。

皆さんおそろいの購買行動は、広いスペースを求めるといっほかに、将来値上がりすると入手が困難になるという見通しがあるためらしい。当今の住宅ブームで、天津でも値上がり傾向が続いているから、今が買い時なのだろう。資金の50%ほどは銀行ローンで、年利は4%程度。返済が月給分近くになるから、奥さんの給与で生活することになるとか。転居後、現在の住宅を賃貸すれば余裕は出るだろうが。天津駅で狗不理包子と天津菓子を購入。暮れなずむ雪景色を楽しみながら北京へ。地下鉄で西直門、タクシーで帰宅。ふたりは、前門に買い物に行ってから、中国風景画のジグソーパズルに熱中。

豚肉水炊き鍋で夕食。

11/27(木)

オートミールを食べて出勤。1・2年生にバブルの崩壊を話す。景気循環論からはじめて宇野恐慌論を説明、すこしバブルの歴史事例を紹介して、日本のバブル崩壊とその後の長期停滞をスケッチ。労働力商品の特殊性についての質問。資本は相対的過剰人口までは創れるが、人口の絶対数は増加させられないことを説明。ペイオフについても解説。

10:10の送迎車で帰宅。小雪がちらついている。ジグソーパズルは完成していたが、3ピース足りない。



発売元情報はないから請求はできない。手作りするほかないとの結論。

包子の昼食後、センターへ。日本学総合講座の「法制史研究に見える中日研究スタイルの違い」を聴講。センター専任講師の張彦麗さんはセンター出身で人民大学で法学博士号を取得したひと。黄宗智（アメリカ籍、UCLA 教授）、梁治平（人民大学教授）、滋賀秀三（東大名誉教授）、寺田浩明（京大教授）の法制史研究のスタイルを比較紹介。清朝中国には「法」があるのか、民事裁判があったのか調停だったのかという論点をめぐる論争から、西欧法社会を基準とする法制分析の限界、新しい分析視角の必要性を講演。講演途中で、中国のことを中国語を使わずに語ることに限界を感じると独白。

また一言をやる。独白について、ドイツ法制史の創設者サビニーが、法は言語と同じく民族の文化歴史的産物と言っていることを紹介して、中国法制を日本語で語ることの困難性に同情。コン・リーの「秋菊...記」を引きながら、裁判か調停かの問題を質問。日本の小作争議調停法は、民衆を、裁判という国家の聖域から遠ざける「支配」の意図を持っていたことを紹介して、調停という紛争解決法にも、ゲノッセンシャフト内の処理方法という面以外に、ヘルシャフト的側面もあると指摘。そのうえで、「秋菊...記」の解釈の仕方を訊ねた。清朝にいたる調停という中国伝統が、あの映画にも描かれているという答え。

これはちょっと納得しにくい。たしかに、調停の伝統はあろうが、封建社会の調停と社会主義社会の調停とを短絡させては、歴史が見えなくなる。時間があれば論争したいところだが、見送り。

清水さんのお嬢さん達とバスで帰宅。外国語大学の小学校で元気に勉強している。運転手の周さんに「サイチェン」と言ったら、お嬢ちゃんに「ザイチアン」だとしかられた。なるほど、「再見」は zaijian だ。子どもの言葉の習得能力は素晴らしい。滞在中に多少は中国語を習おうと思っていたが、いまやあきらめ。

寒くて買い出しに行きたくないのであり合わせの夕食。食料ストックが底をついてきた。

11 / 28 (金)

双楡樹早市に買い出し。賓館の白楊はほとんど葉を落とした。街の槐もわずかの葉を残すだけになり、植え込みのバラは切りつめられて上に土盛りして冬籠もりだ。空気も冷たく、帽子の耳当てを下ろして歩く。この帽子、フェイク毛皮だが暖かい。楊先生には、最近は東北でもその帽子は流行っていないと笑われたが、実用的だ。薄着でかぶっていたら、畔上さんには、頭だけ暖かければ大丈夫なのですかと訊かれて困ったが、ここでも老人がかぶっているのを見かけるから、まあいいだろう。

ジャガイモ、ニンジン、タマネギなどなど基礎的野菜を担いで帰る。目方の割りに実に安い。日本ではみかけない柑橘類、しいていえば小夏を少し大きくしたようなものを買った。内皮や白い繊維部分は似ていないが、房の味は、上品な甘味で似ている。

朝食は、双楡樹早市の表通りで買った肉挟み餅（@ 2 元）、甘栗屋の隣の店で買った目玉焼き挟み餅（@ 1.5 元）。豚角煮を香菜と一緒にみじん切りにしたものを挟んだ餅は、ほうぼうで試したが、この店の美味しかった。丸太を輪切りにした中国まな板の中央が凹んだ上でみじん切りにするので、衛生上の疑念も感じるが、これまで問題はなかった。昔語りの中国の蠅は、そうとう徹底的にやられたらしく、めったに飛んでいないから大丈夫かもしれない。それでも、街角でおばあさんがト口箱に入れて売っている挟み餅には、ちょっと手が出ない。バス停のそばで店開きしているので、通勤途中の若い男女が買って、そばに置いてあるプラスチック容器から漬け物を箸でつまみ出して挟んで食べている。美味しいのかなと思うが。

新聞は、台湾で国民投票法が修正されて可決された記事がトップ。独立や憲法改正については、外部からの圧力があつた場合を除いて、レファレンダムの対象にはしないという制約を付けた法だ。政府の意向とは異なる結果で、台湾にも理性的な考えの立法者がいると、ひとまず評価する中国識者の発言が載っている。

テレビでコンドームの広告が許可されたという記事。いつかは、性関係の研究展示会が初日に中止になったという記事があつたから、すこし自由化されたのかと思ったら、AIDS 対策が主旨とのこと。街の成人衛生ショップにはかなり際どいものが並んでいるし、ヌード写真集も公然と販売されてはいるが、一般的には、性はまだタブーの世界らしい。

ざるうどんの昼食後、元たちはビザをもらいがてら買い物に出かけた。

原稿を書き続ける。そろそろ 100 枚くらいになるが、もう少し書くことは残っている。

元のビザは無事更新された。前のビザがキャンセルされて、新しいマルチの F ビザが発行された。これには、一回の滞在期間を書く欄がないから、有効期間中なら、無制限の自由な出入国が可能だ。発行料金は 125 元。料金は国籍によってことなり、非対等国は 100 元、その他、国によって 85 元から 300 元くらいで、日米は同じなど、不思議な格差になっているという。このビザ手続きを旅行代理店などに頼むとなんと 1680 元取られるらしい。

精進揚げで夕食。

11/29(土)

また双楡樹早市に出かける。カリフラワー、葉菜、長い青唐、ピーナッツ、うどんを買ってから、パン屋でブドウパンを仕入れる。南開大学の専家楼食堂で食べた巨大なシシトウが美味しかったので買ってみた。炒めると、かなり辛いけど美味しい。日本の甘長を大きくしたような青唐辛子だ。辛みというのは、味覚ではなく痛覚だというのが、味ではある。ほどほどの痛感快感ということか？

新聞は、昨日の台湾のレファレンダム法の危険性を批判する記事がトップ。つまり、いざ併合と中国が動いたときには独立投票ができるところが危険だということ。陳政権は、行動を制約されはしたものの、ある種の防壁を作ることに成功したわけだ。

政府と共産党が発行する新聞・雑誌の購買強制が廃止されるという記事。すでに制定された規則によって、政府・党関係の新聞 2000 紙以上と雑誌 9000 誌以上が強制講読対象から外される。地方の村や町が、購入強制によって支払う購読料は、職員一人の数ヶ月分の給料に匹敵する額にのぼったから、負担が軽減されるという。刊行・出版物にも市場原理を導入する措置だ。

昼は、恵子のチャージャン麺。

原稿を書くが、持ってきた資料では足りない部分が出てきた。校正で手直しすることにして書き続ける。恵子たちは城郷スーパーに買い物。火にかけたら割れてしまったガラス・ポットの補充など。

夕食は、手作り餃子、ただし皮は市販品。賓館内のスーパーで、燕京ビールを買ってくる。すぐ前だから便利だが、すこし高いのが問題。外のスーパーなら 3.5 元ほどのビールは 5 元。

元はパソコンを使って家の設計。フリーダウンロードのソフトだが、3次元画像も動かせる。まだ使いこなせていないから、片流れの尖塔がついたサイケ調の家が現れる。建築制限があるから、楊先生の 200 平方メートルまではとうてい及ばない。潘家園旧貨市場で見つけて気に入った乾隆帝愛用の机のレプリカを入れるスペースは無さそう。机のあらゆる側面が龍の模様で覆われているのだから、部屋の真ん中に置くのが最適だが、それはそもそも無理な話だ。

11/30(日)

朝、双楡樹早市へ。梨 2 種、ネーブル、とうがん、ほうれん草、うどん。社区の中の店で、葱餅、25cm くらいのが 1 元。甘栗店のとなりで中国ハンバーグ、焼き餅の間にプレスハム厚切りを挟んで味噌味付けしたもの (@1.5 元)。梨は美味しいが、ネーブルはあまり甘くない。

冬の旅を聴きながら、原稿を書く。クリスタ・ルードビヒ、クルト・モル、ハンス・ホッターと聴いたが、やはり、男声の方が良い。菩提樹・春の夢・郵便馬車あたりは、ルードビヒにピッタリの感じだが、あふるる涙・ライエルマンなどになるとすこし無理がある。モルのバスはいつ聴いても素晴らしい。

昼はザルうどん。芝麻醬を使うとゴマだれが簡単にできるし安い。

午後、むすびまで書き終わる。明日、センターにある昭和財政史の英文資料で確認すれば完成だ。歴史に於ける必然と偶然の問題をむすびでは書くつもりだったが、110 枚くらいになってしまったので、とりやめにする。いずれ、このテーマで 1 本書いてみよう。

夕食は、トウガンのあんかけ、いんげん炒め、挽肉炒め、市販の米皮豚肉。

2 年生の修士論文中間発表についてのコメントを作る。